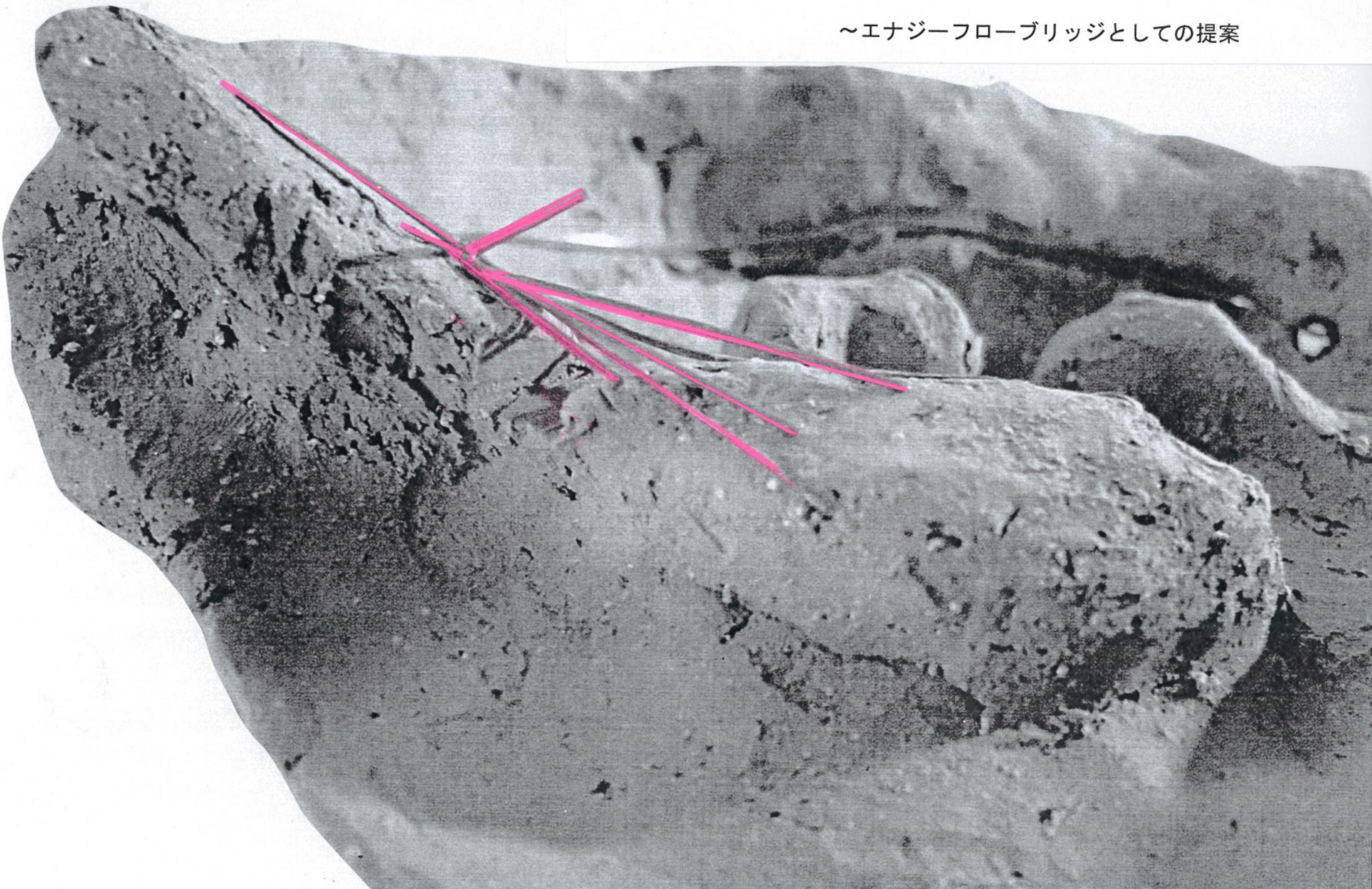
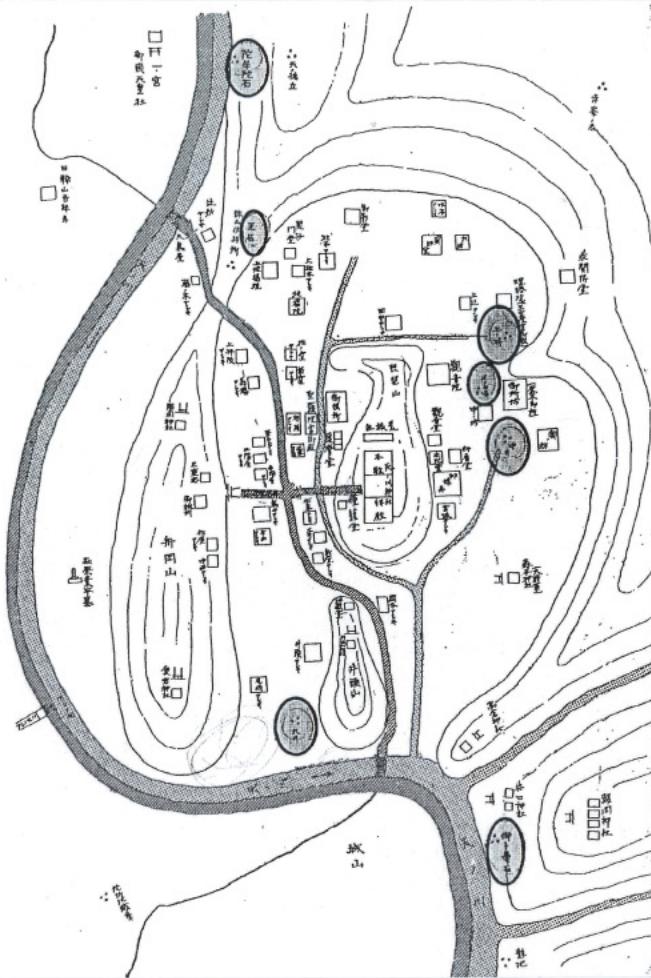


# かんりゅうばし（環流橋）

～エナジーフローブリッジとしての提案





### くつぼのうち

天河神社を取り囲む坪内地区は、まさに地名のごとく壺状の地形をしている。この不思議な地形は川が著しく蛇行していて、環流構造とよばれ古代より水の聖地であるケースがここ坪内のように吉野でも多く見られる。



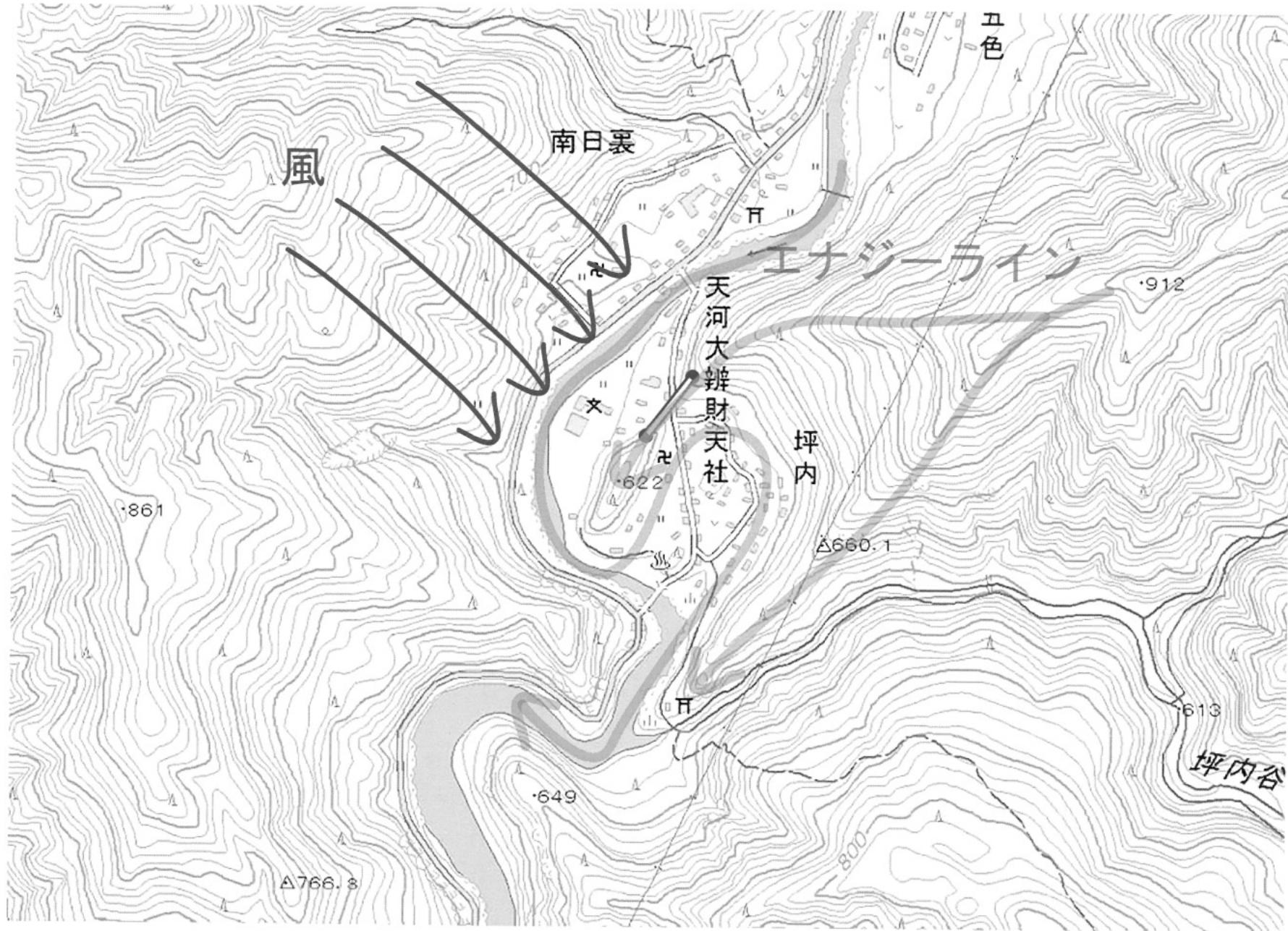
### <地勢・エネルギーのながれ／再発見へ>

坪内は古代は川であり天河神社は浮き島であったが川は流れを変え、数世紀前ころより土地として人々は移り住み始めた。

一見長閑に見えるいまの坪内も、地勢としての変化をたどるとダイナミックにえぐられる環流構造のうえに浮遊しながら成り立っている。

一方、奥宮弥山よりひとつは高倉山へひとつは船岡山へと尾根づたいに聖なるエネルギーが流れる。

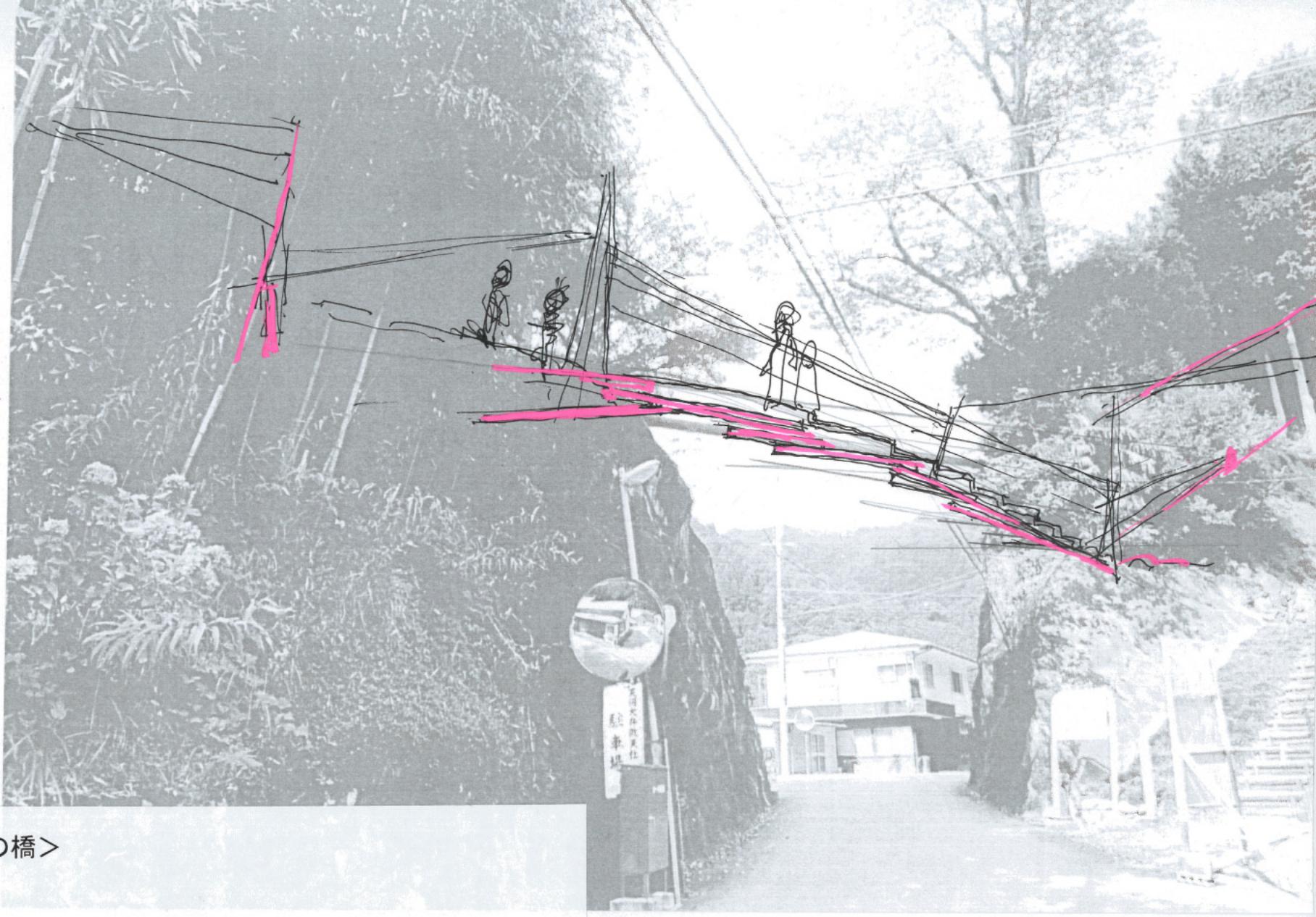






### <結界>

聖域として分け隔てるかたちとしての結界というものが古来よりある。それは古来、天河神社が浮き島であったように自然地形としてのかたちから鳥居や太鼓橋のようなかたちと様々である。船岡山への尾根の連なりが途切れながら参道と直行している今回の橋の計画地はある意味、当初は自然地形としての結界的存在であったのかもしれない。



### <結びなおしとしての橋>

今、結びなおしという意味合いでこの橋を提案してみる。

今、ダイナミズムの中で一度は途切れてしまったエナジーフローとしての尾根  
が繋がろうとしている。

そこは新たな結界として結びなおされるのであろうか？

結びなおされるその場所、エナジーフローからどんな香りが醸し出されまた  
どんな音が聴こえてくるのだろうか？

## 風でささやくエナジーフローブリッジ

悠久の時間の中で少しづつ変化をみせる、自然の風景。  
ゆっくりとした時間の中で止まることなく変化し続けている。

坪内の地形はこうしたゆっくりとした時間の中に力強いエネルギーが巡っている。  
かつての地形を想像してみると船岡山の尾根と高倉山の尾根とにはさまれ沢に岩倉がそびえ、川の流れが巡っている。  
尾根によって自然の荒ぶる環境からそっと守られているような地形。  
北西からの強い風も船岡山の尾根により和らげられていたに違いない。

現在は離れ島となった船岡山と弥山につづく尾根の寸断された場所には、目に見えない風の流れがある。  
尾根と船岡山とが橋で繋がるという事にはかつての坪内を守っていた自然の形が再現されるという重要な意味がある。  
その橋からささやく様に鳴り広がる風の音はそういった目には見えない長い時を経た自然の出来事を語ってくれる。

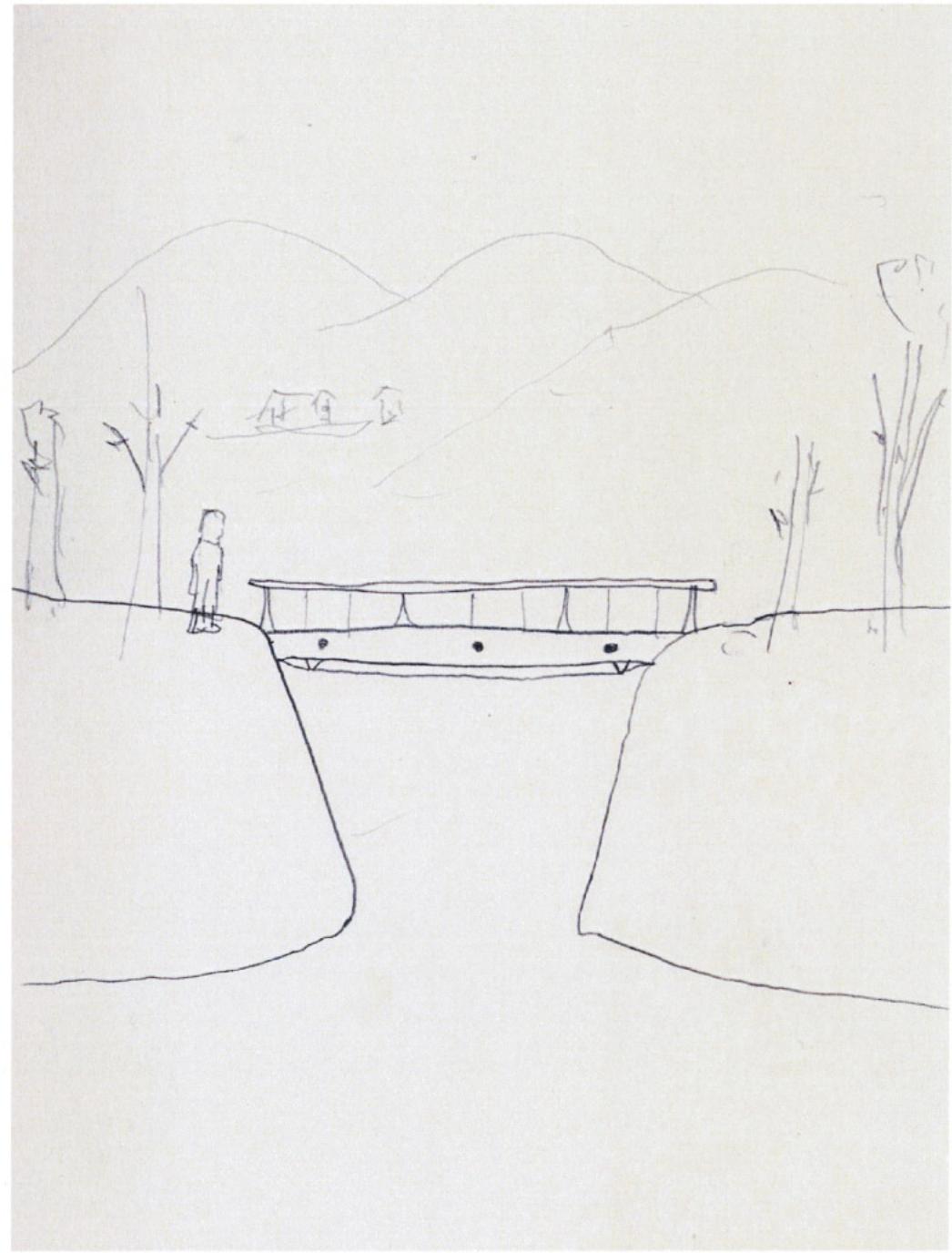
### 風が音を奏でる橋とエオリアンハープについて

エオリアンハープ（風奏琴）は風が弦にあたって発生する気流とその負圧による共振作用を利用した楽器です。  
弦には固有の振動数とそれに伴う様々な倍音を含んでおり、風の強さや量の変化によって、音量が大きくなったり、ピッチ（音程）が無段階に変化していく様子を体験することができます。常に変化する風が作り出す1度きりの演奏として楽しむことができます。  
この仕組みを利用し、野外での音響彫刻作品の展示や、風を取り込み音を発する建築の事例などに活用されています。

橋をぬける風によって、橋から音が発せられるとそれを聴いた人は、目に見えない風の変化を耳でとらえます。  
やがて音に意識がむけられ、川の音や木々の葉っぱの揺れる音、動物たちの声を聞き、自然の恵みを体感することができます。

過去のエオリアンハープ作品事例（映像ファイルにてエオリアンハープの音を聞くことができます）





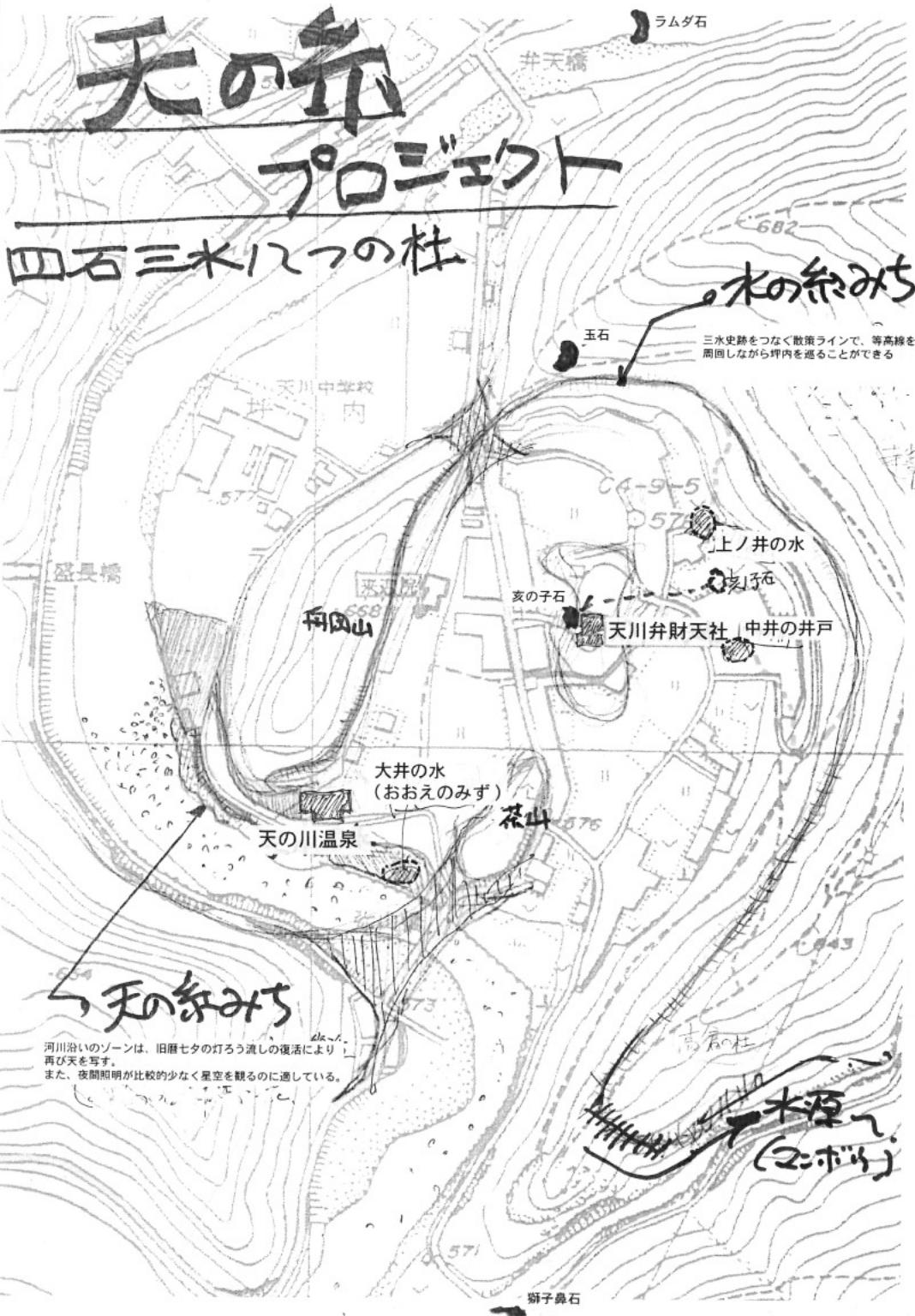
## <災害／生きること>

不利としての災害で終わるのであろうか、いやそれが未来へすすんでいくための何らかの始まりなのであろうか？

自然を崇拜する、信仰としての意味合いの中では日本における出来事が世界の縮図であり、近年被災が続く坪内ではあるがこの場所もいろいろな意味で縮図であるという哲学的意識もある。

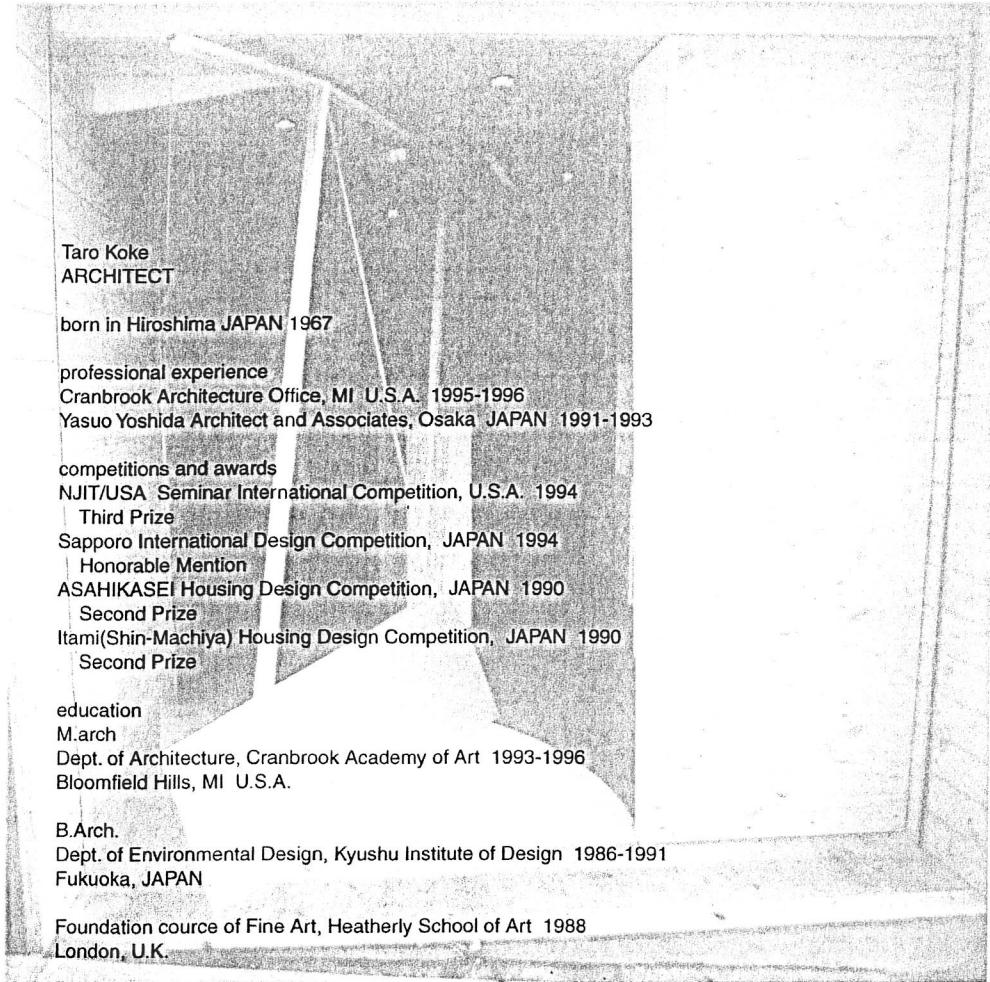
これは災害ではないのかもしれない。これは大自然が発するひとつの表現であり、世界に向けた縮図としてのメッセージであり、こうした地球意識のなかでこそ前向きに生きていく坪内の姿があるのかもしれない。まさに坪内はダイナミズムの中に生きている。





### <散策／自然への想い>

今回提案する「かんりゅうばし（環流橋）」によって自然は結びなおされ、リンクする散策路は坪内の自然資源や生きている歴史、自然観へ、地球意識へといざない育んでいく。



Taro Koke  
ARCHITECT

born in Hiroshima JAPAN 1967

professional experience

Cranbrook Architecture Office, MI U.S.A. 1995-1996

Yasuo Yoshida Architect and Associates, Osaka JAPAN 1991-1993

competitions and awards

NJIT/USA Seminar International Competition, U.S.A. 1994

Third Prize

Sapporo International Design Competition, JAPAN 1994

Honorable Mention

ASAHIKASEI Housing Design Competition, JAPAN 1990

Second Prize

Itami(Shin-Machiya) Housing Design Competition, JAPAN 1990

Second Prize

education

M.arch

Dept. of Architecture, Cranbrook Academy of Art 1993-1996

Bloomfield Hills, MI U.S.A.

B.Arch.

Dept. of Environmental Design, Kyushu Institute of Design 1986-1991

Fukuoka, JAPAN

Foundation course of Fine Art, Heatherly School of Art 1988

London, U.K.

建築家 幸家大郎 (こうけ たろう)

1967 広島生まれ

1991 九州芸術工科大学 芸術工学部環境設計学科 卒業

1996 クランブルック アカデミー オブ アーツ 建築専攻修士 終了 (U.S.A.)

1991-1993 吉田保夫建築研究所

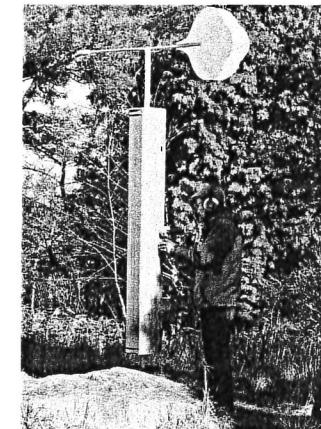
1995-1996 クランブルック アーキテクチャー オフィス (U.S.A.)

1997 帰国後、幸家大郎建築研究所 開設

2007 大阪市立大学 工学部建築学科、非常勤講師

中川浩佑 / 中川弦楽器製作所

弦楽器職人



略歴

ギター、ベース、マンドリンなどの弦楽器の製作・修理を主におこなっている。

平行して風が音を奏でるエオリアンハープ(風奏琴)という楽器を製作し発表・楽器を使ったパフォーマンス活動をしている

1980年 大阪生まれ

2000年4月～ イギリスにある楽器製作者Chris Eccleshall氏の工房で弦楽器の製作を学ぶ

2003年6月～ 大阪で弦楽器製作工房、中川弦楽器製作所をはじめる

主な活動として

2004年2月 「A Chance to Cut is A Chance to Cure」 (SUMISO 大阪)にてIn0jaQ氏のサウンドインスタレーション楽器(エオリアンハープ)担当

2011年3月 弦楽器と木版画の展覧会「オルボシュ山の一夜」(gallery yolcha 大阪)

2011年 自作のエオリアンハープが奏でる風の音と環境音を録音・映像記録する「Wind Collecting Project」開始

2012年～ 風を利用して楽器建築「風の音」(芦澤竜一建築設計事務所)の音響設計協力として参加。エオリアンハープを建築物の一部として設計・施工する。2013年11月竣工

2015年4月 「トナカイ山のトゥオッジ-山びこ編-」木と土の木版画と弦楽器の展覧会(手の間 福岡)

2016年9月 六甲ミーツ・アート芸術散歩2015 (六甲山上 神戸)

受賞歴

2016年9月 六甲ミーツ・アート芸術散歩2015 彫刻の森美術館賞